

11月下旬の土曜、八十六歳の父の歩き方がおかしくなった。下肢に力が入らなくなっているらしく、また、座っていると左に傾いていく。左手が水平に挙げられない。2ヶ月前、就寝後にトイレに行こうと起きた時に壁に頭をぶつけているのが原因だろうと推測した。翌々日の月曜に病院に連れて行こうと考えていたが、夕方には独りで歩くのもままならなくなり、このままでは夜間に大変になりそうだと考え、脳神経外科のある休日当番医に連れて行った。予想通り、慢性硬膜下血腫(右)(脳の硬膜とくも膜と間に血が溜まる)であった。入院となり、翌日は日曜である為だろう、手術は翌々日となった。手術では頭蓋骨に穴を開け、ドレイン(排水管)を設置して、溜まった血を出し、生理的食塩水で洗浄する。

手術は無事終わり、全身麻酔から醒めた父は明るかった。順調に回復し、十一日で退院した。しかし今度は左脳の血腫が少し増えていた。一週間と少しして、退院後、初めての受診の金曜日、再びおかしくなってきた。CT検査によると、今度は左脳が血腫で圧迫されていた。まだ余裕はあったが、入院させてもらった。翌日には、

分っていても言葉にできない様子となった。月曜午後一番の手術予定だったが、月曜の朝5時に病院から、呼び掛けに応えなくなったので、すぐ手術すると電話があった。病院に駆けつけ、手術が終わるのを待った。前回と違って、父との面会はだいぶ遅くなった。会えた時にも明るい様子はなく、まだ言葉や精神に異常が残って

いた。その翌日には、誤嚥性(飲食物が気管に入る)肺炎となる。覚悟しなければいけないと思ったが、幸いなことに新たに投与された抗生剤が効き、肺炎は治った。そして脳の問題もなくなり、回復した。今回はお退院まで2週間かかった。

ところで、実は頭を打撲する前の夜にも、就寝後、トイレに起きようとした時に、肋骨を骨折(ヒビ)し、救急車のお世話になっている。つまり2夜連続で転倒しているわけである。今

までこういう事はなく、また父が変におとなしくなっているのを不審に思い、3日程前から夜間頻尿改善の為に飲み始めている泌尿器科の薬を調べてみた。確かに頻尿に対して使われることがある薬であるが、内容としては降圧剤と抗鬱剤であり、どちらも副作用として、フラフラしたりする可能性があることが記されていた。これが転倒する様になった原因であったわけだ。

父は以前、近くの内科で前立腺肥大症の薬を処方され飲んでいて、新聞に新しい簡単な前立腺肥大のレーザー手術が行えるようになったという記事が載ったので、それを行っている病院を受診した。と

ころが検査によって、前立腺肥大を否定され、前立腺肥大症の薬を中止するよう言われて来た。そこで今度は近くの泌尿器科を受診し、先の降圧剤と抗鬱剤が処方されたというわけである。

こうした顛末を読んで、どう思われるだろうか。父の慢性硬膜下血腫の原因は何だと言えるだろうか。次回、考えてみたい。(2013年冬至)

